

ARCHITECT

The Japan Institute of Architects

2015 4 APR



CONTENTS

【連載】

対談 第3回 建築を囲む科学（前編） 生源寺眞一氏に聞く

第3回 建築家は、リージョンを持つ。

都市型アートイベント「sebone（せぼね）」 黒野有一郎

【NEWS】

建築家資格制度について考える

尾林孝雄・加藤幸治・中西修一・森口雅文

特集・連続企画 地域社会と建築をつなぐもの 2

<対談>美浜町宮河和団地基本設計プロポーサルを通して見えてくるもの

石田富男・栗原健太郎・岩月美穂



公益社団法人 日本建築家協会東海支部

木に向ける視線と 森に向ける視線 ①

tele-design collaboration network
名古屋市立大学大学院 芸術工学研究科 准教授 久野紀光



仏教は、大乘仏教と小乗仏教（最近では上座部仏教とされているらしい）に大別されるという。筆者は無信教者なため、詳しくは宗教学の専門書に拠っていただきたいが、大雑把に言えば、公の幸福がひいては個の幸福に至るといって大乘仏教に対して、まず個の幸福があって初めて公の幸福に至るといって小乗仏教だそうだ。

幼い頃より、「滅私奉公」を尊ぶべきという躰を受けてきた筆者にとっては、個の幸福を優先する小乗仏教の考え方に馴染めずにいたが、2011年3月11日から今日までの被災地を実見するにつれ、身に染みついた躰すら正しいのか分からなくなってきた。

震災発生直後に、盟友の槻橋修（建築家、神戸大学准教授）と電話で意見交換した。さまざまな言葉を交わしたが、主旨は「我々に何ができるだろう？」という青臭い衝動に尽きたと記憶する。唯一明確に覚えているのは、「この災害がなぜ起きたのかは研究者が解明していくだろう。どれほどの惨事なのかはメディアが伝えるだろう。でも、この災害で一体どんな街が失われたのかは誰が記録するのだろうか？」といった内容を、どちらともなく口にしたことだ。幸いにして、建築設計を生業としている我々は、模型制作の基本的能力を日々培ってきている。ならばこの

能力を活用して、在りし日の街を模型で復元してみてもはどうだろう、と。

こうして始めたのが「失われた街～模型復元プロジェクト」だ。まずはTOTOギャラリー・間との協力を得ながら、全国13大学の研究室と協働して14の街を縮尺1:500で1m四方の模型を制作し、続いて東京都現代美術館の協力を得ながら、全国15大学の研究室と協働して新たに三陸の11の集落や街を同じ縮尺で巨大な模型を制作した。もちろん、先にも記したように衝動的な想いから始めたプロジェクトであったため、この作業にどのような意味があるのか、明確な答えを見据えていたわけではない。むしろ大変デリケートな側面すらあるため、これらの模型は全て可能な限り感情を抜き取り特別な意図を込めないことにこそ、細心の注意を払うべきだと考えた。これが模型を白模型で制作した理由だ。

実際に制作を始めると、愕然とすることが次々と起こった。まず、あまりに膨大な被災範囲に呆然とし、模型復元エリアを絞るのすら難しい。さらに、制作のベースとなる地図や空撮画像では情報が2次元化されているため、各々の建物が何層なのか、軒の出はどれほどなのか、といった街を印象付ける重要な情報が捨象されている。もちろん、現地へ赴き踏査するも

のの眼前に「在りし日の街」はなく、この種の情報の補完は限られる。

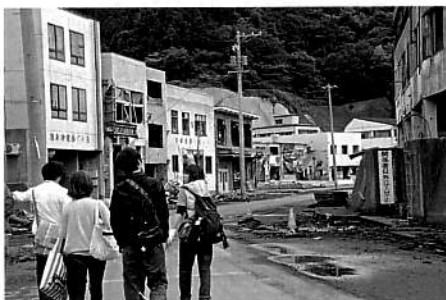
それでも被災地に何度も足を運び、わずかな街の記憶の欠片を取材し、役場などに残る祭の風景写真などを閲覧させていただきながら、なんとか3次元の街を立ち上げるに至った。それゆえ、これらの模型が正しく「失われた街」を復元できたと言い切る自信はなかった。

釜石を踏査中に筆者はある漁師の方に声をかけられた。数分の立ち話の別れ際にこの方が話された言葉がいまでも耳にこびりついている。曰く、「なんかさ、きっと偉い学者先生や国や役人さんが、デカイ堤防を建てたり、俺らの住まい高いところに造り直してさ、街のみんなの安全を確保してくれるんだらうね。でも、そうして命を守ってくれることはありがたいけれど、俺らは海に育てられ海を職場にしているんだよ。海から遠のいて住むってことは、生きがいを失うことになるわけよ。命はあるけど生きがいをなくしちゃったらさ、どうしたら良いんだらうね？ デカイ堤防で、川が海に山の栄養分を運ばなくなっちゃったら、（養殖の）牡蠣も痩せちゃうだろうしさ。俺はこの歳だし、死ぬまで海の近くで海の色をみながら漁師したいよ」。

街の皆の命を守ってこそという大乘仏教の下で動く大きな事業と、海に寄り添ってこそ個々の生きがいを見出すという小乗仏教から発せられる小さな声。森に向ける視線と木に向ける視線の、どちらに重きを置くのが正しいのか？

恐らく正解などないが、少なくとも筆者がもっと多くの街の方々の声を聞き続けねばならないことだけは間違いなさそうだ。

（②は5月号に掲載予定です）



釜石市での踏査風景



復元模型の製作風景



模型復元された釜石市
(TOTOギャラリー・間「311失われた街展」展示模型)